

インフルエンザワクチンの接種について

【病気の説明】

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することにより起こる感染症です。1日から4日ほどの潜伏期間の後、発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛などの全身症状が比較的急速にあらわれるのが特徴です。普通の風邪のように、のどの痛み、鼻水、咳などの症状もみられます。合併症で特に肺炎や脳症を併発した場合は重症になることがあります。

【ワクチンの種類】 2種類あります。

①不活化ワクチン(注射)

②経鼻弱毒生ワクチン(鼻腔噴霧)

※日本小児科学会は、特に重度の喘息患者には不活化ワクチンを推奨する。また、飛沫又は接触によりワクチンウイルスの水平伝播の可能性があるため、授乳婦、周囲に免疫不全患者がいる場合は不活化ワクチンの使用を推進する。としています。

【ワクチンの効果】

インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては、一定の効果がとされています。

【副反応】

①不活化ワクチン

注射部位が赤くなる、腫れる、硬くなる、熱をもつ、痛くなることがありますが、通常は2〜3日で消失します。発熱、悪寒、頭痛、倦怠感なども起こることがありますが、通常は2〜3日で消失します。過敏症として、発しん、じんましん、しっしん、紅斑、かゆみなどもまれにあらわれることがあります。強い卵アレルギーのある方は、強い副反応がでる可能性があります。

非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。(1)ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管の腫れなど) (2)急性散在性脳脊髄炎(ADEM) (3)脳炎・脳症・脊髄炎・視神経炎 (4)ギランバレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など) (5)けいれん(熱性けいれん含む) (6)肝機能障害・黄疸 (7)喘息発作 (8)免疫性血小板減少症、血小板減少 (9)血管炎 (10)間質性肺炎 (11)皮膚粘膜眼症候群 (12)ネフローゼ症候群

②経鼻弱毒生ワクチン

鼻閉・鼻漏、咳嗽、口腔咽頭痛、頭痛などがみられることがあります。

重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管性浮腫などがあらわれることがあります。

神経系障害(バル麻痺を含む脳神経障害、脳炎、けいれん(熱性けいれんを含む)及びギラン・バレー症候群及び血管炎が海外で報告されています。

【予防接種を受けることができない方】

- 1 接種当日、明らかに発熱している方(通常37.5℃以上の方)
- 2 重篤な急性疾患にかかっている方
- 3 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー(通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のひどいじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと)をおこしたことがある方
- 4 卵等でアナフィラキシーショックをおこしたことがある方
- 5 その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した方

※経鼻弱毒生ワクチンの場合は以下の方が追加されます。

- 6 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する方及び免疫抑制をきたす治療を受けている方
- 7 妊娠していることが明らかな方

【予防接種を受ける前に、医師とよく相談しなければならない方】

- 1 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有する方
 - 2 予防接種で接種後 2 日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のみられた方
 - 3 過去にけいれんの既往がある方
 - 4 過去に免疫不全の診断がされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
 - 5 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器疾患を有する方
 - 6 接種液の成分又は鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対してアレルギーをおこすおそれのある方
- ※経鼻弱毒生ワクチンの場合は以下の方が追加されます。
- 7 ゼラチン含有製剤又はゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー等の過敏症の既往のある方
 - 8 重度の喘息を有する者又は喘鳴の症状を呈したことがある方
 - 9 授乳中の方
 - 10 妊娠の可能性のある方(接種前 1 か月間避妊していない方)

【ワクチン接種後の注意】

- 1 接種後 30 分間は、急な副反応がおこることがありますので、医療機関にいるなどして、様子を観察し、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
 - 2 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
 - 3 接種当日は激しい運動は避けましょう。
 - 4 万一、高熱やけいれん等の異常な症状がでた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ※経鼻弱毒生ワクチンの場合は以下の注意が追加されます。
- 5 接種後 1～2 週間は乳児や重度の免疫不全の方との接触を可能な限り避けましょう。
 - 6 妊娠が可能な方は、接種後 2 か月間は妊娠しないように注意しましょう。